# 町長発！〝がんばるトーク〟



町長　上川 元張

シルバーウィークの９月20日、くま川鉄道（熊本県人吉市）の全線運行再開の記念式典に、若桜鉄道社長として出席しました。くま川鉄道は人吉温泉駅―湯前駅間24・８kmを走る三セク鉄道です。令和２年７月の集中豪雨で沿線の球磨川が氾濫、営業車両５両が全て水没し、橋梁が流されるなど、甚大な被害で全面運休となりました。その後一部区間で運行が再開されましたが、代替バスでの運行が続き、流失した球磨川第四橋梁の再建に合わせ、６年２ヵ月ぶりに全線で運行再開を遂げたものです。復興への道のりは想像を絶するものであったと思いますが、陰の立役者として、過分にも若桜鉄道もご招待いただいたのです。

若桜鉄道では、発災直後に車両係長の谷口剛史さん（新町）を現地に派遣。谷口係長は車に発電機など必要な機材・部品を積んで単身熊本入りし、エンジン浸水や車軸の錆への対処など、炎天下で５日間応急処置を行った結果、１両のエンジンが息を吹き返し、復興への希望の光となりました。

また、令和６年３月にＪＲ九州のＳＬ人吉号（８６２０形）が営業運転を引退しました。この車両は、熊本市から人吉・球磨の温泉地へ長年多くの観光客を送り込み、「ハチロク」の名で親しまれました。車両は人吉市に無償譲渡され、人吉駅の広場に里帰りしましたが、「復興のシンボルとして何とか動かしたい」という人吉市の熱意に応えたのも、谷口係長でした。若桜鉄道でＳＬ（Ｃ１２形）を圧縮空気で動かした動態保存のノウハウを全面的に提供し、改造工事を主導してこれを実現、昨年11月に盛大にお披露目されました。

さらに、くま川鉄道は、復興に向けて、若桜鉄道が全国で初めて導入した上下分離方式（沿線自治体が施設を保有し鉄道会社が運行を行う方式）にも着目、令和５年７月に松岡隼人会長（人吉市長）と永江友二社長が視察に来町されました。その後検討を重ねられ、人吉市を中心に沿線の１市９町村で鉄道施設を管理する「一般社団法人くま川鉄道管理機構」を設立し、このたびの全線運行再開に合わせて上下分離方式へ移行されました。



▲お祝いのメッセージを掲げる沿線住民

こうして復興に多少なりとも関わらせていただけたことは、光栄なことでもあり、ともに再出発をお祝いしたいと式典に参加しました。

当日は、人吉駅のホームで晴れやかに式典が行われました。また、特別列車が運行し、沿線の各駅では式典が営まれ、園児の踊り、高校生の書道パフォーマンス、勇壮な太鼓などが花を添えました。沿線では、いたるところで多くの住民が手を振ったり、準備したお祝いのメッセージを掲げるなど、鉄道復活の喜びをはち切れんばかりに表現されていました。

式典後のイベント会場では、トークショーで司会者から登壇を求められた谷口係長が、地元の方々から大きな拍手で迎えられ、復興の喜びを永江社長と語り合いました。そのあと、会場でＳＬ人吉号を自ら運転して鉄道の新たな船出を祝福し、ひときわ大きな喝采を浴びていました。私も大変誇らしく、光栄に感じたひとときでした。

祝賀ムードの中、松岡会長が「これから住民のマイレール意識をどう醸成するかが課題です」と、気を引き締めておられましたが、これは若桜鉄道にも共通する課題です。地域とともにある鉄道。そんな鉄道の大きな価値を再認識した一日となりました。